

2023年度

(令和5年度)

自己点検・自己評価報告書

厚生労働省の指針である「看護師養成所の教育活動に関する自己点検・自己評価指針作成検討会」報告書に基づき教職員を対象とした評価を2023年度も実施しましたので、以下にその結果を報告します。

I 目的

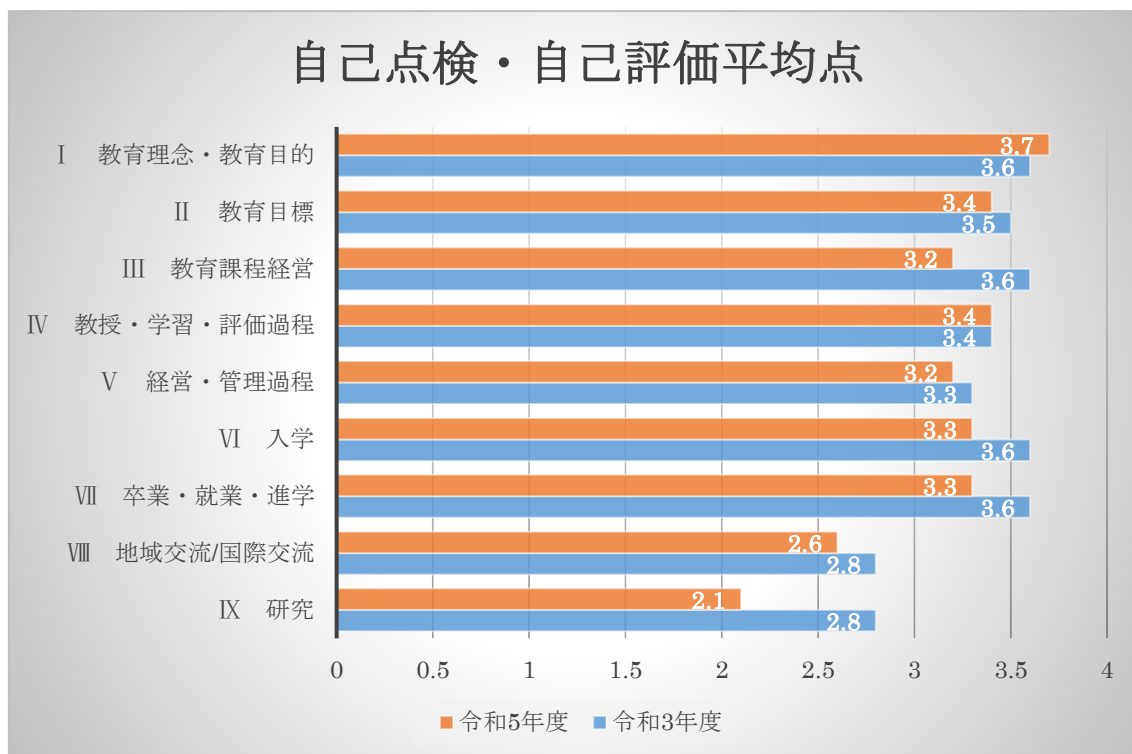
学校運営及び教育活動に対する自己点検・自己評価を継続的に行なうことで改善点を見出し、教育水準の維持・向上を目指すとともに、今後の学校運営に役立てることを目的とする。

II 評価結果

令和5年度の自己点検・自己評価は「看護師養成所自己点検・自己評価指針」に則り、教育理念・教育目的、目標の達成状況、教育課程運営、学生の学習支援、学校運営等について前回同様9カテゴリーの評価表に基づき実施しました。

評価は4段階の評価尺度を点数化し、「4. そう思う」「3. ややそう思う」「2. あまりそう思わない」「1. そう思わない」とし項目の平均点を示し、前回（令和3年度）と比較しました。（図1）

図1



前回との比較において、カテゴリーIが上昇。カテゴリーII・IV・Vがほぼ変化なく、III・VI・VII・VIII・IXは低下がみられた。またVIII・IXに関しては平均点が3以下と

改善策が必要と考えます。

令和3年度より取り組むべき重点課題として、「カリキュラム改正後の進捗の確認と、教育内容の充実化」「自己評価体制を整え、授業実践にフィードバックできるような機能させる」「入学生の確保」「研修活動の保障や時間確保」をあげていました。以下それぞれのカテゴリーについて評価をしていきます。

I 教育理念・目的

教育理念・目的は前回よりも上昇傾向にあります。令和4年度カリキュラム改正に伴い、教育理念・目的を教員全体で再確認し、当校の目指す看護師としての資質や教育活動等、カリキュラム再編のプロセスの中で理解が深まった結果が反映されていると考えます。当校の「生命を尊重し人間の可能性を信じる」という教育理念を軸として、学生にとっての学習指針となるように、より一層浸透させていきたいと考えます。

II 教育目標

カリキュラム改正の際に教育理念から教育目標に一貫性があるよう設定しました。育成すべき看護実践能力と学生の成長を促すための目標設定になっていると考えます。教育目標から各年次での到達目標を設定し、到達レベルに合わせて目標を立案できていると考えます。「卒業後の継続教育の考え方を示した上で教育目標を設定している」という点に関しては、カリキュラム改正によりディプロマポリシーを念頭に置いた教育目標を立案したものの、ディプロマポリシーと教育目標の関連に関する認識について教員間で周知していくことが必要であると考えます。また、卒後就職する病院でのニーズの把握、継続教育に関して把握し基礎教育での目標について共通認識をもてるよう取り組んでいきたいと考えます。

III 教育課程経営

教育理念・目的の達成に向けて職員全体が到達レベルを確認しながら活動を継続できていると考えます。「教員の教育・研究活動の充実」という面では、経験年数に応じた仕事量への配慮等、教員の専門性を発揮できる担当科目の配分と授業準備のための時間の確保については、今後改善できるよう検討の必要があると考えます。

教員の自己研鑽については、新型コロナウイルス感染症の影響で自粛していた研修等も再開してきている状況から、可能な限り自己研鑽のための時間を確保していくことが課題となります。また新カリキュラムから開講した病態生理学や既存の看護過程の講義等複数の専任教員が担当する講義において主体的な学習へ向けた教授方法の擦り合わせや学生にとって効果的学習となるような横断的講義形態について相互に意見交換し、実践している所であり、相互研鑽のシステムの整備段階にあります。学生の看護実践体験の保障については前回同様評価が高く、臨地実習指導者と教員の協働体制の

整備、臨地実習施設との連携をより発揮できていたのではないかと考えます。実習基幹病院には当校の卒業生も多く実習指導に携わってくれており、その支援は非常に大きいものがあります。継続した安全教育・安全対策という面でも高い評価にあり、今後も学生が安心して効果的な実践体験を積めるよう努めていきたいと思えます。

IV 教授・学習・評価過程

令和4年度からのカリキュラム改正により教育課程と授業内容の一貫性、科目目標との整合性、看護学教育としての妥当性などの見直しを行いました。試験評価を4段階から5段階評価に変更し、学生の学習意欲を高める為に数値化できるようGPAを導入し、単位認定のための評価基準について明確に示すことができていると考えます。

また、実習の評価基準に関しても見直しを行い、ルーブリック評価を導入しました。演習評価の中にもパフォーマンス評価を導入し、臨床の場で用いられる知識を基にした判断力・実践能力を評価対象とする科目も増やしました。

新カリキュラム運営の評価では、効果的な実習のための科目の進捗・内容について振り返り、基礎看護技術・科目進捗についての見直しを行っています。

2年次各論実習前には、デイサービスセンター実習・在宅看護論実習を組み込むことで、臨床の場で療養している患者様が一人の独自の生活背景をもった生活者であることに目を向ける事や社会資源にも目をむけることができました。新カリキュラムの運営については2年目であり、カリキュラムに関する評価方法・内容について教員で共通認識を持つことができましたが、各年次年度末評価から、より教育内容が充実するよう次年度に活かしていきたいと思えます。

また、授業展開過程における「効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている」という項目は低い傾向にありました。実習等の兼ね合いから演習等の授業の協力体制に関して、会議を持ち協力できる教員が講義や演習のサポートに入っている状況で、今後も会議を持ちながら講義内容や演習等を全教員で共有しサポート体制を整備していきたいと思えます。「シラバスの提示や学習指導は、学生の学習の動機づけと支援になっている」という項目に関して、学習の動機づけとなる効果的な学習指導となるよう努めていますが、学生の動機づけになっているのか学生側の状況把握と、経験年数の浅い教員が迷うことなく学習指導していくことが出来るか検討していきたいと思えます。

また当校では、社会人基礎力を養うために入学時から3年間を通して社会人基礎力の向上を目指していけるよう取り組んでいます。各年次の到達状況の状況把握から強化点を導き、高めていけるよう努めていきたいと思えます。

V 経営・管理過程

学習環境整備については、事務とも連携し財政状況を把握した上で必要な整備の検討を重ねていきます。また医療の進歩に伴い教材も変化させていく必要もあることか

ら、教材点検・整備を行い教員一人ひとりが現状を把握できるよう努めていきたいと考えます。

学生の支援については学生の生活・学修に関して全職員で情報共有をし、支援・協力体制を整えています。特に学生の心理面での支援体制については、教員がカウンセリングの必要性など見極め、必要時には保護者と共有しながら学生にとって必要なタイミングでサポートを受けられるよう、カウンセラーと連携、情報共有しながら学生のメンタルヘルスサポートケアを図りたいと考えます。

広報活動については教育の特徴や魅力を伝えるため、ホームページや Instagram 等学生に周知されやすい工夫を行い、学校案内のパンフレット等見直しを行っています。オープンキャンパスも少しずつコロナ感染症前の体制へ戻し、年2回の日程から新高校3年生を対象とした春期休暇中の実施を加えて3回へ増加したためその後効果的な広報活動であったか評価していきたいと思えます。

教育理念・目的達成のための権限や役割機能の明確化・意思決定システムの明確化については2.8と評価が低い状況であり、周知できていないことが示唆されることから周知できる体制づくりが必要であると考えます。自己点検・自己評価体制については、前回同様評価が低く、授業や教育目標の維持・改善につなげ機能できるよう浸透させていきたいと考えます。

VI 入学

入学者状況・推移については分析・検証していますが、少子化問題、看護系大学の増加、十勝管内の看護学校新設立により学生の確保がより難しくなっている現状にあります。当校の教育の特徴や魅力を伝えるための企業努力が必要であると考えます。広報については前述したように今後も各高校への訪問など継続して積極的に実施していきたいところです。

当校の設置目的に合わせ、地域におけるニーズを把握しながら指定校推薦制度についても見直し学生確保に取り組んでいきたいと考えます。

VII 卒業・就職・進学

令和5年度は学生の希望により保健師学校への進学者が2名、助産師学校への進学が1名おりました。今後も進学希望があれば学習支援をしていきたいと考えています。国家試験については3年間を通した支援体制を継続するとともに、模擬試験結果の分析をし、学生の弱い部分を強化していきます。卒業生の動向については看護部長会議等で情報交換を通して把握をしています。卒後4年目以降の退職率が高くなっている傾向にあるため、各病院と連携を取りながら地域看護への魅力を在学中から発信していきたいと考えます。また在学中から悩みを打ち明けられる環境を整え、卒業後もサポートできる学校であることを示していきたいと考えます。

VIII. 地域社会・国際交流

前回同様低い評価となりました。国際看護に関しては、科目立てしておらず看護学概論や災害看護の中で国際的な取り組みを教授しています。当校は地域における基幹病院としての役割を担う看護師育成を目指しており、高齢化社会の進行や在宅看護への移行など社会状況に目を向けられるような学習内容の検討を重ねていきたいと思えます。また、感染症により自粛していた地域活動を再開し、可能な限り地域への関心を高めるため、地域社会との交流をしていく機会を模索していきたいと思えます。

IX. 研究

研究活動の保障や時間の確保など今後も検討が必要であると思えます。研究活動の保障、助言・検討の体制についても課題は前回同様であると思えます。研修も再開されつつある状況であるため、学会やセミナー等へ参加した場合には教員間で知見が共有できるようにしていきたいと思えます。

【今後の課題】

令和6年度より取り組むべき重点課題としては、カリキュラム改正3年目になるため、「カリキュラム改正後の進捗等カリキュラム評価と、教育内容の充実化」更に再度課題となった「自己評価体制を整え、授業実践にフィードバックできるよう機能させる」「入学生の確保」「研修活動の保障や時間確保」であると思えます。自己点検・評価を通して見えてきた教職員全体の周知の不足している部分を補いながら、全教職員が一貫して充実した学習支援ができるような組織作りが必要であると思えます。

また学生に対しての適格な評価ができるように各教員が自己研鑽に努めること、看護学教育、看護観、学生観など教育活動の指針を各自が明確にし、教育体制を充実させることで、学生の学習意欲が向上する環境を整備していきたいと思えます。

今後は少子化・看護師養成校の増設等により入学生の確保が最大の課題となってくると思えますが、当校の学習環境や指導体制の良さを発信していけるよう教職員全員で課題を共有し取り組んでいきたいと思えます。